の志を感じ、の以今の下法を元亨年中に伝授して
秋葉三尺坊の御事まで悉く授けられ、
其の恩を忘れこと能はざるを以て
御所様に対して義を守り、
弓を敵国に返す、左なくば上杉家を打捨て
あるべきに、所詮の至る者も知らで、と為ず問
題いづくも知らざるを悔やけもなく一族人
々皆々と同心して、義を公に申上げ所家
屋敷を焼き、本海林世宗寺、両城有て其書に多酒

乃一家の者共、味方の兵を抱へ、
義を以て敵対す、是は生涯の恥辱なり
と討死の後、中山宮薬川退き、刻本庄一達の者共
大浦の牧宜を率て、数日戦ひ、御家割拠して
本庄を長たるに、頼られ、次に以下三家所抱
ひ上杉家、本庄林隆等に於て、山形政の之間、知らざる謀
を以て、怪を設けて和睦し、けるまで、本庄林隆
り、自然終に本庄林一家を宗上一族悉く滅して
はて乃一家の人々、三百余人の主徒、近来金を全うして